

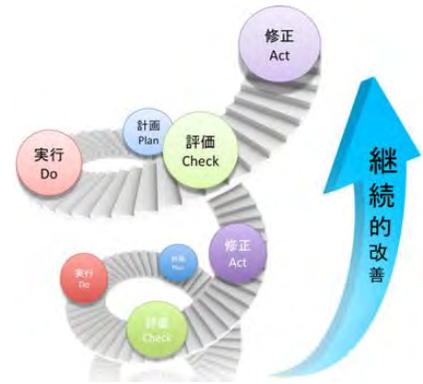
5.安全への取組



5-1 安全意識の醸成

年度毎に策定した安全計画および各部門の安全重点施策に関する行動計画の進捗状況は、輸送安全対策会議等において現業各課長から社長へ直接報告を行い、関係者全員がその状況を共有するとともに必要に応じてその計画や対策等の見直しを行っています。

現場と一体となってPDCAサイクルを機能させることにより、安全を最優先する企業風土の醸成を図り、安全の絶対確保を目指して取り組んでいます。



5-2 主な取組

■ 安全方針の理解と徹底

鉄道に携わる全従業員が、安全方針・安全目標を理解して行動できるよう、安全管理規程等の周知教育等を継続的に行うとともに、「輸送の安全を確保する最後の砦は扱う人である」ことを十分に認識し、基本動作の励行や作業手順の厳守等を徹底する職場風土の醸成に努めています。

■ 基本動作の励行 ～「見る」「見られる」の実践～

指導監督者等の添乗指導により、列車運転時の基本動作について「見る」「見られる」を実践して相互にチェックを行っています。また、個別の懇談指導を通し「事故・インシデントの多くはヒューマンエラーに起因して発生している」ということを全運転士に認識させ、ヒューマンエラーの防止に努めています。



定期的な添乗によるきめ細かな指導

■ 法令・規程の遵守の徹底

鉄道に携わる全従業員に対して安全管理規程等の社内規程や関係法令の周知教育を定期的実施し、安全を最優先した行動をとるように指導しています。

■ 安全意識の高揚施策の推進

毎月、行動規範実践週間を設定し、輸送の安全の確保に係る行動規範を踏まえて一人ひとりが日々の実践目標を定め、安全意識の向上を図っています。



個人実践目標(例)



行動規範の実践

■ 酒気帯び運転の厳禁



アルコール検知器による確認



乗務員の出勤点呼時および起床点呼時に、監督者による対面での心身状態とアルコール検知器（ストロー式）による酒気帯び確認を行っています。なお、対面確認が出来ない出先宿泊者については、アルコールチェッカーとスマートフォンを接続し、画像と測定値を記録し監督者に送信して確認するシステムを導入しています。

覚せい剤等薬物乱用の防止

麻薬・覚せい剤乱用防止の啓発ポスターの掲示や年間教育・懇談指導を通して、覚せい剤等の薬物使用の禁止について厳正に指導しています。



ヒヤリ・ハット情報の共有化

輸送の安全に係るヒヤリ・ハット情報は、「みんなのため」「自分のため」に非常に有益であるという意識が職場全体に浸透するよう努めています。収集したヒヤリ・ハット情報は原因を分析し、対策を立案して職場に掲示し、周知しています。



ヒヤリ・ハット情報の職場掲示による注意喚起

運転の安全に係るリスク情報（気づき情報）の共有化

事故を未然に防止するため、現業係員一人ひとりが、運転の安全を損なう恐れがある危険要因や不安全な要因などを「気づき情報」として報告しています。収集した「気づき情報」は、原因を分析し、対策を立案して輸送安全対策会議に諮り、その内容を共有・周知することにより、事故の未然防止に努めています。



ヒヤリ・ハット情報とリスク情報の募集箱

各種掲示等を活用した懇談指導

安全パトロール

技術部では定期的に安全パトロールを実施しています。これは触車事故防止実施要領や安全作業心得等が遵守され、適正に業務や作業が行われているかを点検するものです。また、若手係員が監督職とともに現場巡視に帯同し、直接、現場を経験することにより、触車事故防止や作業手順の理解度を深めていく現場教育を定期的に行い、個々の安全意識の醸成に努めています。



作業現場に赴き安全パトロール

5-3 教育・訓練

現業各部門で年間教育訓練計画を策定し、輸送の安全の確保に必要な知識・技能の習得に努めています。

5-3-1 人材育成・技術伝承

運輸部

- 運転係・指導監督者の指導力、コミュニケーション力の向上を図るため、毎月、指導者会議を開催し、指導成果や今後の指導方針について議論し、指導の進め方を確認しています。また、同業他社の監督者との交流も積極的に行い、指導監督者としての意識を高めるよう努めています。



運転係・指導者会議



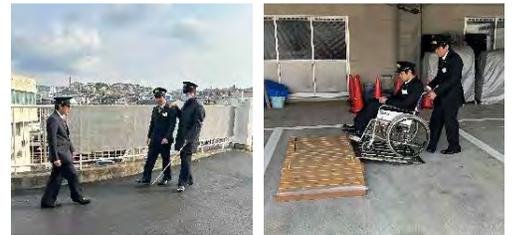
同業他社の監督者との交流

- 乗務員休憩所に設置したパソコン上に、「今さら聞けないこんな話」という運転士の相談窓口を開設しています。運転士自身が抱えている日常業務での様々な疑問を匿名で書き込むことができ、それを受けて指導監督者がパソコン上で回答することにより、個々の業務知識の補完や習得を支援していくためのツールです。また、書き込まれた質問や回答は、誰もが自由に閲覧することができます。



「今さら聞けないこんな話」の活用

- 目の不自由なお客さまや車椅子利用のお客さまへの介助の方法・声のかけ方などについて、新入社員教育時等に机上・実技研修を行っています。



介助実技研修

- 現業係員に対する教育指導目標として、運転保安においては安全を最優先する意識の徹底ならびにその取扱いの習熟度向上を目指し、旅客サービスにおいてはCS意識の浸透と接遇力の向上ならびに営業知識の強化を最重点課題として取り組んでいます。そのような中、駅務集合教育において必要な知識の向上を目的に研修・訓練を実施しました。



簡易型止水板設置訓練



車椅子用階段昇降車 取扱研修

技術部

- 各課で策定した年間教育計画に基づき、階層別の作業スキルアップ訓練や習熟教育を実施し、現業係員個々の資質向上に努めています。また、知識・技能のレベルアップとコミュニケーション力の向上を図るため、同業他社を交えた業務研究発表会や技術競技会等を定期的で開催し、幅広い知識と高い技術力を兼ね備えた人材の育成を行うとともに、人的な交流も深めています。

軌道関係



社内保線コンテスト



安全管理規程に係わる教育



「分岐器の構造と保守」教習

電気関係



信号機復旧訓練



電柱復旧訓練



電気課集合教育

車両関係



台車関連 OJT 教育



搬送台車装着訓練
(6500系)



運輸課集合教育へ
講師として参加

- 業務研究発表会等の開催
 技術部各課では、技術情報の共有化と知見の深度化を目的として、同業他社との合同業務研究発表会を実施しています。
 また、車両課では個人の車両検査技術の理解度と技量を客観的に把握するための技術審査会を、定期的で開催しています。



業務研究発表会（土木）



業務研究発表会（車両）



車両技術審査会



5-3-2 ヒューマンエラーの防止

■ 集合教育を通じた良好な職場環境づくりと安全意識の醸成施策

運転士には実地による運転操作、映像による注意予見等の予防教育や速度厳守に対する掲示・懇談指導を実施しています。また、集合教育において他社事故事例をもとに各自が考える「安全、安心、快適」について、グループディスカッションを実施し、安全意識の醸成に努めています。

また、2024年度は阪神・淡路大震災後30年の節目を迎え、震災を経験していない若手社員も増えてきていることから、震災を経験した社員が、自らの経験や教訓を次世代を担う若手社員へ語り継いでいく取組を行い、地震に対する心構え等を伝承し、安全意識の向上に努めました。



5-4 合同訓練

各部門間で連携した対応が求められる大規模災害や事故等を想定して、鉄道事業本部内にて共同で各種訓練を実施しました。

■ 自然災害(巨大地震)を想定した事故復旧対応訓練

1. 実施日時 2024年11月22日(金) 13時～16時
2. 実施場所 見津信号場 車庫構内
3. 訓練想定 13時19分 岡山県北東部を震源地とした震度5強の地震が発生、当社沿線の観測震度は「三田」震度4、また「鈴蘭台」、「三木」、「小野」各震度5強であったため、直ちに防災体制地震2号指令が発令された。
 下り列車は、粟生線川池信号場～木津間付近を走行中、列車無線からの地震発生の一報を受け、速やかに停止すべく制動中、前方線路西側のブロック擁壁が倒壊し、土砂とともに下り線軌道内へ流入しているのを発見し、直ちに非常ブレーキ措置を採るもこれに乗り上げ停止した。なお、脱線はしておらず、また車内の乗客に怪我はなかった。
 その後、余震も収まり、乗客全員を木津駅へ避難誘導した。
 また、技術部各担当者により被害状況が報告されたが、その被害が大規模かつ範囲が複数箇所であったことから、緊急事態対策本部2号体制を発令、併せて本部対策本部ならびに現地担当部会を設置するとともに復旧作業が開始された。
4. 訓練課題
 - ・防災の基本方針に則り、乗客および従業員の安全最優先で行動するとともに早期復旧を目指す。
 - ・基本動作の励行ならびに確認作業の徹底を図る。
 - ・各部署間の連携を十分に図り、作業員間の意思伝達に食い違いや、認識の相違が生まれないよう、大きな声で確認会話を実践し、確実な情報伝達を図る。
 - ・事故復旧に際しては、慌てることなく、冷静な判断と的確な指示を行うことの重要性を意識し「触車・感電・墜落」といった二次的災害や事故をひきおこさないように細心の注意を払う。
5. 訓練内容
 - 情報伝達訓練、避難誘導訓練
 - 復旧訓練（土木復旧訓練・車両復旧訓練・施設復旧訓練・電力復旧訓練）

状況確認



被害状況の確認と情報収集訓練

避難誘導



お客さまの避難誘導訓練

復旧訓練



各部門における災害復旧訓練

車内刃物所持者への対応訓練

昨今、列車車内において刃物を所持した不審者に切りつけられるという事件が発生しています。そのなかで犯人と対峙した乗務員が負傷するという事象も発生していることから、列車内で刃物所持者による無差別な傷害事件が発生したことを想定し、お客さまの避難誘導、負傷者の救出、沿線警察や消防をはじめとする関係機関との連携強化および社員の安全意識の高揚を目的に合同訓練を実施しました。

- 実施日時：2024年10月18日(金) 10時00分～12時00分
- 実施場所：谷上駅構内 1・2番線および改札階コンコース



■ 列車運転休止時の代行バス輸送訓練

例年、代行バス訓練は、実際に貸切バスを使用して代行バスルートおよびバス停位置の確認、バス添乗係員の業務確認など旅客案内方の訓練を実施しており、2024年度は対面およびオンライン方式による机上代行バス運行訓練を実施しました。

○12月4日（水）～12月5日（木）（走行区間：粟生線 三木駅～小野駅間）

※市場駅～小野駅間の池の下踏切道拡幅工事における、三木駅～小野駅間の列車運転休止に伴う鉄道代行バス運行を実施するにあたり、事前説明および訓練を実施しました。



代行バスルート・バス停位置・バス添乗係員等の注意事項を確認

■ そのほかの訓練

・ 触車事故防止実施要領に関する実地講習

普段の業務で線路内に立ち入る機会が少ない運輸部係員を中心に、業務を委託している請負業者の係員等も参加し、触車事故の防止や作業手順の理解度の向上を図る実地講習会を開催しました。

当日は技術部施設課員を講師に迎え、線路内作業や線路内を歩行する際の注意点や作業標の掲出方法などについて再確認しました。



実地講習の状況

5-5 安全に関する設備投資

山間部が多い当社沿線では激甚化する自然災害への対応として法面や橋梁等の構造物を補強する防災対策を計画的に進めています。

過去5年間の安全に関する設備投資を含めた投資実績は、下記のとおりです。



線路・土木構造物

●軌道の強化

PCまくらぎ化や分岐器の更新を計画的に推進するとともに、道床更換等を適宜実施し軌道を強化しています。

【PCまくらぎ】

PCとはプレストレスト・コンクリートの略で、寿命が50年程度で木製より耐久性が高いコンクリート製まくらぎのことです。



道場南口駅～神鉄道場駅間
軌道改良工事（道床更換）



葉多駅～粟生駅間
PCまくらぎ化工事



施工前



施工後

有馬口駅～五社駅間 1K000M 付近線路左側（法面防災、深礎擁壁構築）

●法面・橋梁等の補強

近年、頻発化している局所的・集中的な豪雨等に備え、計画的に法面・橋梁等のインフラ構造物の補強を順次進めています。

●ホームの改良



ホーム改良による内方線の整備
（志染駅2番・3番線ホーム）



ホームの嵩上げによる
段差解消と内方線の整備(例：田尾寺駅)

目のご不自由なお客さまのホームからの転落を防止するため、内方線付点状ブロックの整備を順次進めています。



●バリアフリー化工事(施工例) 花山駅下りホーム
（2022年度供用開始）
各駅の段差を解消するバリアフリー化を計画的に進めています

● 支持物の建替

電車線を支持している電柱の耐久性向上を図るため、コンクリート柱化を推進しています。2024年度は粟生線で9基を更新しました。



施工前



施工後

施工前

粟生線 緑が丘駅～志染駅間

施工後

● 変電機器（電力ろ波器等）の計画的な更新

安定した電力の供給を図るため、変電機器の更新を順次行っています。

（有馬線・丸山変電所
電力ろ波器の更新など）



電力ろ波器

直列リアクトル



電力ろ波器(リアクトル付き)

施工前

有馬線 丸山変電所

施工後

● 運転支援装置の設置

運転支援装置は、速度超過等を未然に防止することを目的に、ヒューマンエラーが発生しやすい場所を対象として対象地点の手前で速度超過やブレーキ操作の遅れなどを検出し、運転士に対し音声と光で注意喚起を行うことで、安全性の向上を図る装置です。



● 車齢・车系・車種に応じた車両の改良、機器の更新

車体補修（屋根）、床補修、SIV装置の更新、主回路配線の張替、その他の機器更新および補修などを実施しました。



屋根補修



SIV装置更新



主回路配線の張替